

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2973600113
法人名	有限会社 陽だまり
事業所名	認知症高齢者グループホーム華やぎの里
所在地	奈良県吉野郡大淀町北野66-7 (電話) 0746-32-8203
評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1
訪問調査日	平成20年5月21日

【情報提供票より】(20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 15日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11人
利用定員数計	9 人
常勤	6人
非常勤	5人
常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺 造り
	2階建て 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	名				
要支援2	名				
年齢	平均 85歳	最低	75歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 庄田クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、野鳥のさえずりが聞こえる自然に恵まれた環境の住宅地の一角に既存建物を改装され事業開始されています。ホーム内は清掃が行き届き清潔感が溢れ、また、木をふんだんに使い温もりある環境に整えられています。利用者も、それぞれの特技や経験を活かしながら本人のペースで穏やかに生活されています。職員も基本理念を遵守され、一人ひとりの思いや願いを大切に、しっかりした見守りの下に支援されています。なお、毎年家族と一緒に1泊旅行が実施されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	時の見当識への配慮から掲出されている層に工夫がなされ、また、地域住民や行政との関りに拡がりが見られます。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービスの自己評価に際しては、全職員が参画され運営上の課題把握と改善にむけての動機付けの機会と捉え実施されました。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営会議の設置目的等への理解はあり、構成メンバーの選考過程にあります。基準省令に則り早急に設置される事が望まれます。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月、生活面や健康面等の様子を連絡をされると共に、家族の訪問時等に暮らしの様子を伝え、希望・不安に感じられている事項を聞き出し、関係者で検証し運営に反映させる取り組みがなされています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会への加入はもとより、地域の行事や草刈等地域の社会活動に参加され、また、公民館活動への参加等により地域社会との交流を積極的に取り組まれています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の意思及び人格の尊重と地域との結びつきを重視し、自立した日常生活を営む事を基本とした理念が作られています。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議や日々の支援の中で、理念の具体化への意識付け・実践への取り組みがなされています。また、玄関正面に簡潔な文言による理念の掲出があります。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入はもとより、地域の行事や草刈等地域活動にも参加され、また、近くの公民館活動に参加等により地域住民との交流が積極的になされています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスに対する自己・外部評価の意義・目的を正しく認識されており、自己評価に際しては全職員が参画の下に実施され、課題等の確認と改善への動機付けへの機会として取り組みがされています。また、外部評価結果を大切にされ、改善項目等については実現への取り組みがなされています。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設置の趣旨や期待出来る機能への理解があり、構成メンバーの選考段階にあります。		運営推進会議の設置の趣旨・目的を認識されていますので、基準省令に則り早急に設置される事が望めます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に開催される行政主催の研修会への参加と共に、運営上の諸課題等の相談や情報交換のために訪問機会を多く設けるようにされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に暮らしの様子を報告されると共に、毎月「健康面・生活面・食事面」等の項目別に手書きした生活の実態や金銭の出納状況が報告されています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時に、本人や家族の希望・不安に感じられている事等を聞きだす取り組みや、家族会での意見交換とアンケートの実施等がなされ、意見等を記録・検証され運営に反映させる仕組みがあります。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	安定した生活を維持するためには、馴染みの関係作りは大切な要素との考えから、職員異動にはしっかりした引継ぎの下になされ、混乱が生じないよう十分配慮がなされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会への積極的な参加と共に事業所内研修会も実施され、資質の向上への取り組みがなされています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等での情報交換程度に留まり、同業者との交流まで至っていない現状にありますが、サービスの質の向上を図る上で必要な取り組みと認識されています。		同業者との相互訪問や事例検討等通じサービス水準の向上に活かす取り組みを検討されていますので、積極的な実施を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心したスムーズな入居に繋げるために、家族や馴染みのボランティア関係者も同行した見学の実施や職員が家庭を訪問する等により、ホームの雰囲気と馴染み関係の構築に工夫されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居前に得た生活歴や情報等の中から、暮らしの中に本人の特技や経験が生かせる場面設定に工夫され、職員と協働できる環境整備に努められています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	継続的な生活を支援するために、生活歴の把握と暮らしの中での本人の希望・意向の把握に努められています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人がより良く暮らし続けるためとの認識に立ち、本人や家族の希望と身体的状況を勘案され関係職員が検討し作成されています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3月に一度、全利用者の介護計画を現状に照らして適切なものとなっているか検討がされ、乖離が見られる場合や、身体状況に変化が見られるときには随時見直しする仕組みがあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況を勘案され、通院や買い物等に柔軟な対応がなされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、かかりつけ医受診とされており、受診の際には暮らしの様子を伝える事とされています。なお、定期的に協力医の往診もあり適切な医療管理がなされています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への対応について医療機関等と話し合いが持たれ、一定の方向性が確立されており、契約時に家族にも説明・相談されています。		医療機関との協議がなされていますので、ホームとして明確な方針を取りまとめ、職員にも周知共有化に努めて行かれる事を期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個人の意思と人権の尊重」の理念を遵守し、優しく丁寧な支援に努められています。なお、個人情報の取り扱いについても学習され、各種記録類は決められた場所で管理・保管されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活の流れの設定はありますが、一人ひとりのペースや意向を大切に支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も職員と一緒に、テーブル拭きや食器等の準備・配膳などに協働され、職員も同じ食事を摂り和やかな雰囲気の中で楽しく食事をされています。なお、一人ひとりの嗜好や能力を勘案され、調理に工夫がされています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴時間帯の設定がありますが、利用者の希望に合わせた支援がなされています。なお、夜間の入浴支援への体制も整備されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生きがいある充実した暮らしの確保には、一人ひとりの特技や趣味・経験を生かせる場面設定が大切との考えから、生活上の役割分担や菜園の手入れ等に配慮・工夫がなされています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外から受ける刺激の重要性を認識され、隣接する公園や公民館周辺の散歩や定期的な買い物等外出機会の確保に努められています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠による弊害を正しく理解されており、センサーの設置はありますが正面玄関は常に開放されています。		センサーを設置されていますが、利用者を監視してしまうことにつながりますので、利用者の自由な暮らしを支えるため、地域との連携やネットワーク作りの推進に取り組む等センサーに頼らない工夫を検討されてはいかがでしょうか。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防署の指導の下に、定期的に消火・避難訓練が実施されています。なお、2階からの避難口も確保されています。		火災発生時には、利用者を安全・迅速に屋外へ誘導することが必要です。とりわけ夜間の手薄な時を想定して、周辺住民の応援・協力は不可欠と思慮しますので、これが体制整備を期待します。また、震災を想定され、被災時の最低必要物品の備蓄についても検討されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取・補給の状況は詳細に把握し記録されています。また、栄養バランスについても利用者の意向を反映した献立表を本社の管理栄養士が検討する仕組みとなっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングや廊下・浴室・トイレ等の共用空間は清掃が行き届き異臭も無く清潔感が溢れており、行事の写真の掲出程度で無駄な装飾を排し、穏やかに過ごせる空間が確保されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた家具・調度品や好みの品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。		